

千刈狸の呟き

七月中旬頃から日本各地で、猛暑日であるとか、最高気温の記録更新であるとか、記録的短時間大雨情報の発表であるとか異常気象に関連する報道に接しない日はないように思われる。おまけに、台風が発生個数も多くなり、しかも大型、超大型に分類されるものがやたらと多い印象である。地球温暖化の影響がもはや近未来のことではなく、現実となっていることが実感される。

さて、今この文章を書いているのは八月である。六日と九日は広島・長崎に原子爆弾が投下された日である。多くのいたたましい犠牲者を偲び、平和を願い、あらゆる戦争に反対し、核兵器の廃絶を世界に訴える日である。人間を一番多く殺してきたのは、微生物でも災害でもなく、人間である。いったい人類はいつから戦争と殺し合いを始めたのだろうか。旧約聖書ではアダムとイブの長男のカインは弟のアベルを殺した。その経緯は聖書をお読みいただくとして。

人間が増えるに従って、部族間、あるいは特定の集団間で戦争が発生してきたことは、想像に難くない。私の想像であるが、食料や土地をめぐり、あるいは労働力（奴隷）を得るための戦争から、人類の大移動（グレートジャーニー）が起こったのかもしれない。

～ 八月に想う ～

反戦狸

文明が誕生し、記録が残る有史以降は正に戦争のオンパレードである。文明は武器の発明を促した。武器とは、効率良く敵を倒し、勝利を得るための殺人道具である。兵器と同じく戦争に勝つために必要なものは、大義名分である。正義は我にあり、邪悪なのは敵である。敵愾心を強く刻むことで、自分の命を抛（なげう）ち、敵の命を奪うことに何のためらいもなく、戦うことができるのである。国の大義名分とは別な次元で、国のため、大切な人を守るためとの思いで、割り切れぬ思いを割り切り死地へ赴いた話も聞く。

私の本棚には、戦争に関する本が多く並んでいる。国は何故、戦争を始めるのか。それを回避する事は何故不可能だったのか。有力なポイントは言論の自由を守り抜く事だと考える。それが危くなった時、情報統制が行われる時、戦争への扉が少しずつ開かれて行く。